

## 美術の授業の課題

- 1 生徒が表したい思い(主題)を生み出せていない授業が見られます。
- 2 教師が生徒のつまずきや活動の停滞に対応していない授業が見られます。

## 授業改善のための取組として(案)

## □ 生徒の発想や構想を引き出すヒントを示しましょう。

- 生徒が対象から感じ取ったことや湧出したイメージ、考えたことや想像したこと、夢や希望などを基に表現したい主題を生み出し、構想を練ることができるようにする。
  - 【例】 描く対象を一つの方向からではなく、様々な角度から見させたり、可能であれば、実際に触れさせたりするなど、視覚だけではなく様々な感覚を働かせて対象への自分なりの気付き、発見ができるようにする。
  - 【例】 「〇〇な校舎を描こう」「音楽家ショパンの手を想像してつくろう」など、題材名を工夫し、生徒自ら自分の表したい主題を生み出せるようにする。
  - 【例】 水彩絵の具やコンテ、カラーインク、紙色、カラーセロハンなど、多様な材料を準備し選択させることや、コラージュ、フロッタージュ、スパッタリングなど技法面から発想や構想を広げることができるようにする。

## □ 生徒一人一人の主題や意図を理解し、適切に指導しましょう。

- 生徒の「表したいこと」や「どのように表したいか」をよく聞き、生徒が材料や表し方を主体的に考え、創意工夫できるようにする。
  - 【例】 学習シートの記述を参考にしたり、直接生徒から聞き取ったりするなど、生徒の思いや願いを把握し、材料や技法を適切に選択させるなど、解決の糸口に気付かせるようにする。
- 完成までの見通しをもたせ、生徒自ら制作の過程を組み立てながら表現していく技能を身に付けることができるようにする。
  - 【例】 絵の具で着彩する際にどこからどのように塗るかなど、実際に材料や用具などを使う段階では、表現効果や効率性などを踏まえて順序や手順を考えることができるようにする。
- 生徒に自らの資質や能力の仲長に気付かせ、充実感や成就感を味わうことができるようにする。
  - 【例】 表現の学習は、表したいことを基に、思考・判断し、表現する創造的な課題解決の学習を工夫し、学習ノートを基に自らの研究を振り返らせたり、適宜、教師がよさや工夫を認め、励ましたりする。

## 【コラム】 指導する内容に、もれ落ちはありませんか？

「A表現」の内容の指導に当たっては、第1学年、第2学年及び第3学年のそれぞれで、描く活動とつくる活動のいずれも経験させるようにする必要があります。また、描く活動とつくる活動の学習に著しい偏りが生じないようにするとともに、様々な美術表現に親しめるように全体として調和のとれた指導計画を作成することが大切です。